

1949

100-100

保存期限



決裁指定



決行指定



政務次官
回覽
官固付決裁
後一連帶
課名



決行(決裁)後
回覽課名

永

受領
番號
件名

參事第五〇一號
航空機用機關銃並信器奉銃特別支給件

廳名

陸軍航空本部

大臣



次官



高級
副官



主務副官
官房主計



政務
次官

參與官

參事官

審案
筆記者

主務
局長

主務
課長

主務課員
主務技師

主務局長
受領
提出
大臣
了結

三〇〇二〇〇
昭和二年八月二十九日
昭和二年九月八日
大正
大正
年九月
年九月

連帶
局長
局長
(裁決)行決
同同後

陸

軍



指 令

八月二十七日附航部補第二七三號申請通
認可ス

陸軍省及馬車費ヨリ

別紙・通陸軍省及馬車費ヨリ
計フヘシ

但シ費用ハ
支拂フヘシ

三九七七

九月九日



1961

別紙

支給部隊	名稱	數量	摘要
明野陸軍飛行學校	毘式機關銃	一〇	右裝換架ヲ附ス
所澤陸軍飛行學校	回轉式機關銃	三	
	十年式信號拳銃	一〇	

陸軍

官房

航部補第ニ七三號

航空機用機関銃並信號拳銃特別支給相成度件申
 昭和二年八月廿七日 陸軍航空本部長 井上幾太
 陸軍大臣 白川義則殿
 別紙理由ニ依リ首題ノ兵器ヲ左記ノ通特別支給相成度申請ス

左記

支 給 部 隊	名 稱	數 量	摘 要
明野陸軍飛行學校	固定式機関銃	一〇	右裝填架ヲ附ス
所澤陸軍飛行學校	回轉式機関銃 十年式 信號拳銃	一〇 三	

五〇一
 陸軍省 8.29
 陸軍航空部 8.29
 長陸軍航空部
 2.8.29
 陸軍省 8.29

三四シロ月

別紙

理由

一航空機用機關銃ニ就テ

現定數ハ一般ニ過少ニシテ各部隊ノ射撃教育
上不便尠カラサルヲ以テ先般別表ノ如ク定數増加ノ意
見ヲ提出シ置ケリ該意見ノ一日モ速カニ採用セラ
ルヲ切望スルモ目下最モ苦痛ヲ感シアルハ明野並
所澤兩飛行學校ニシテ差當リ前記ノ機關銃ヲ
速カニ支給セラレシコトヲ望ム其主ナル理由尤ノ如
シ

(1) 明野飛行學校ノ現定數ハ固定式及迴轉式共ニ
十四ナリ迴轉式機關銃ハ飛行機ノ裝脱容易ナルヲ以テ機

理

由

區 目	<p>南ト地上用ト流用シ辛シテ教育シ得ルモ固定式機關銃ハ飛行機ヘ裝脱ニ時間ヲ要スルノミナラス裝着後ハ嚴密ナル調整ヲ要スルヲ以テ廻轉式ハ如ク隨時機上用ト地上用ト流用スルヲ得ス教育課目ニ應ジ整備區分ヲナシ置クノ要アリ特ニ射擊學生ニ種及火器學生一種合計三種ノ學生ヲ同時ニ教育スルヲ要スル狀況ニ於テ更ニ其必要ヲ感スルモノナリ之カ使用區分ヲ例示セハ左ノ如シ</p>
機上裝着用	<p>甲式用 乙式用</p>
地上射擊用	<p>六</p>
分解結合用	<p>八</p>
武裝教育用	<p>八</p>

豫

備

四

計

三四

故現支給教外少クモ十挺ヲ増加支給スルヲ要ス

(2) 所澤飛行學校ニハ固定式機關銃ヲ支給セラレアルモ

廻転式機關銃ノ支給ナシ同校職員ハ毎年若干名ツ

戦闘射撃ヲ實施シツツアリ而シテ職員中ニハ操縦者

ニアラサル空中勤務者モ相當含有シアルヲ以テ廻転式

機關銃少クモ三挺ヲ支給スルヲ要ス

ニ信號拳銃ニ就テ

信號拳銃ハ各隊各學校共支給セラレアルニ拘ハラズ独

リ所澤飛行學校ノミ支給セラレアラズ同校ト虽モ屢

陸

軍

煙火信號ニ依リ空地ノ連絡ヲ必要トスルコトアルノミナラ
 ス夜間飛行ニ於テ特ニ然リ從來必要ニ際シテ下志津飛行
 學校ヨリ借用使用シツツアルモ下志津飛行學校ニ於ケル
 學生召集時ニ於テハ不足ヲ訴ヘアル情況ナリ故ニ明野
 飛行學校ノ定數ニ準シテ擬テ支給スルヲ要ス

區

算

